

豊橋市境の国道259号を市独自に整備促進すべきでは

田原市の課題として明確に位置付け、整備につなげたい

一括質問一括答弁方式



赤尾 昌昭 議員
市民クラブ

■国道259号、田原市・豊橋市の市境の整備促進に向けた取り組みについて

問 未整備区間に対する認識は。

答 防災面から第1次緊急輸送道路に指定されている重要な路線。植田バイパス、国道23号バイパスの整備に伴い産業車両の交通量も増え、市境の区間では渋滞が発生している。歩道の未整備区間も多く、歩行者の安全確保など整備の必要性が高い。

問 県や豊橋市の動向は。

答 国道23号豊橋東バイパスの開通による植田バイパスの渋滞を緊急課題と捉えている。県は大崎インター交差点の4車線化、天津交差点の改良に優先的に取り組んでおり、その効果を見て今後の整備方針が決まる。

問 田原市としての整備促進の取り組みは。

答 幹線道路に関する臨海企業などとの意見交換会を生かし、地元の経済界との要望活動や、建設促進期成同盟会などで、豊橋市と協調し強く要望していく。

問 田原市の問題として独自に取り組むべきでは。

答 広域幹線道路は、東三河全体で優先度をつけて活動を行っている。この中で、田原市の課題として明確に位置づけ、整備につなげていきたい。



学校再編により将来の担い手が不足するのは

急速な人口減少の中、将来の担い手の問題は大きな課題と認識している

一問一答方式



大竹 正章 議員
市民クラブ

■学校全体配置計画と地域の将来について

問 学識・統計的なデータで20人以下は学力等の形成に効果的で、15人前後になるとさらに顕著であるという報告がある。市の学級規模は20人以上が必要との考えは、この報告を否定しているのか。

答 少人数指導の効果は否定していない。本市も2人以上の教師による少人数指導を進めている。

問 本市では以前から20人以下学級があるが、社会性や競争心が不足するなどの少人数学級の弊害等を確認しているのか。

答 大きな学校に進学したときに、なじめなかったり、競争についていけないという話を聞くことがある。

問 小規模校のメリットを最大限に生かしつつ、デメリットを解消することが喫緊にとるべき施策では。

答 統合しても、大規模校にはならない。学校規模の適正化は、子どもにとって望ましい学習集団を形成し、よりよい学習環境をつくるものである。

問 ICT（情報通信技術）の活用や合同授業、地域参画のコミュニティスクールなど、小規模校のデメリットが解消できる施策についてどう考えるか。

答 地域の参画は、提案があれば考えていきたい。

問 再編により学校が遠くなることで、若年層の流出と、将来の担い手がさらに不足するのは。

答 急速な人口減少の中、将来の担い手の問題は大きな課題と認識している。子育て世代の支援と地域活性化に地域と一緒に取り組む。